



○「思考・判断・表現」について、学校全体で国語科74.7%、算数科64.9%となり、特に中学年に課題が大きい。算数科を中心に「本質的な問い」に基づく単元構成を工夫することで思考力、表現力を向上させる授業に改善しようとしてきたが、結果は思わしくない。友達とかかわり合いながら学ぶ場を充実させ、自分の考えを分かりやすく表現する力を高める授業改善を進め、「できた」「わかった」を増やし、達成感・充実感をもとに、次の学習の意欲につながるようにしたい。また、「学びの過程や振り返りを具体的に分かりやすくノートに書く」ことについて内容の充実を図ると共に、ICTも効果的に活用し、個人思考や集団思考の質を高めるツールとして活用できるよう指導の改善を図っていく。

#### 豊かな心と健やかな体

評価指標	8月	1月	差
挨拶・返事・時間厳守・当番活動ができ、相手意識をもって友達と関わる児童を90%以上にする。	103%	101%	▲2%
夜9時以降のゲーム機、スマホ等を使わない児童を90%以上にする。	52%	44%	▲8%
持久走または縄跳びの自己目標を達成する児童を85%以上にする。	62%	58%	▲4%

○挨拶・返事等は全員が意識して行動することで目標を達成することができた。自発的に時間を守る79%、当番活動に取り組む95%という結果で、よさや頑張りを共有し認め合い、支え合うことができる集団づくりに継続して取り組む必要がある。ストップ9については、記録表の改善や個人面談等を通して自覚を高めると共に、通信等で保護者啓発を行った。今度、家庭の教育力向上につながる取組に改善していく必要がある。体力については、「体を動かすことが楽しい」を実感できる取組を企画し、継続することで、まわりとかかわりながら楽しく体を動かすことができる児童が増えた。

#### 信頼される学校

評価指標	8月	1月	差
職員の校内研修満足度を90%以上にする。	100%	100%	—
学校が楽しい(充実している)と感じる児童を90%以上にする。	90%	90%	—

○算数科では、比治山大学の山田恵次教授や教育委員会指導主事を招聘して授業研究や理論研修を行い、授業研究の方向性を全体で共有した。児童の学校生活がより楽しく充実したものになるよう、SC等と連携して組織的に対応した。また、児童の「よさ・頑張り」に焦点化した教職員交流を充実させることで教職員の指導・対応の改善につながった。

#### 令和5年度の取組

- 個別最適な学びと特別支援教育を基盤とした教育活動を組織的に推進していく。
- 小規模校のよさを生かし、児童がかかわり合う複式授業、ICT機器を活用した学習活動等の研究推進を通して、児童の自己認識力を高め、「主体的な学び」につなぐ。
- 単元構成を工夫し、児童のかかわり合いを促す学習リーダーを育成することで、児童の表現力・主体性を向上させる算数科の授業研究を通して、学校全体の授業改善につながる教育研究を推進する。
- 近隣の小中学校や地域と綿密に連携し、「コミュニティー・スクール」での地域教育力を活用した取組を進めることで、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようという志をもった児童の育成を図る。
- 感染症対策や防災学習を通して、自らの命を自ら守る危機管理の意識や実践力の向上を図る。

## Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
確かな学力	自らの考えを豊かに表現することができる児童を育てる。 【表現力】	○教科書の内容を理解し、活用問題も解くことができる。(成果指標：学期末テストで8割以上の児童を算数科、国語科とも70%以上。)	① 個々の児童の躰きを分析し、組織的な指導・支援により、それぞれの課題解決を図る。 ② 学区各校と綿密に連携を図り、三次版「授業モデル」や十日市中学校学区オリジナルカリキュラムを軸にした授業改善を推進する。 ③ 家庭学習の手引き等を活用し、保護者と連携しながら家庭学習の充実を図る。 ④ 読書やICT機器活用に関する研修・実践の充実を図る。
		○自分の考えを相手に伝わるように工夫して発表したり、書いたりすることができる。(成果指標：学びの過程や振り返りを具体的に分かりやすくノート等書いている児童90%以上。また、成果物を3回以上作品応募に出品。)	① 学習リーダーを中心とした学習展開を工夫し、主体的な学びを深め、表現力を高める。 ② 持続的な学びに繋がるよう、授業のまとめや振り返りを充実させる。 ③ 課題発見・解決学習をベースに児童相互の係り合いを大切に授業づくりに取り組む。 ④ 成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。
豊かな心と健やかな体	他者の気持ちを想像し、自分の気持ちと折り合いをつけ、他者も自分も幸せにする行動が進んでできる児童を育てる。 【主体性】 【共感力】	○道徳的価値の自覚を高め、社会性を育てる。(成果指標：時間の意識、当番活動、自分・他者のよさ、頑張りを認め合って積極的に関わる児童90%以上。)	① お互いを認め合う集団づくりを進める。 ② 挨拶、時間等を意識した行動を評価する。 ③ 掃除、当番活動等、行動への自覚を高める。 ④ 児童会、学級活動等の指導を充実させる。
		○基本的な生活習慣の確立と体力向上を図る。(成果指標：ストップ9遵守、体力向上自己目標達成90%以上)	① 生活習慣調査や面談等を定期的に行い、児童、保護者と情報共有して課題の改善を図る。 ② 児童の運動への意欲向上につながる体育科授業改善や体育的行事等を計画的に行い、体力向上を図る。
信頼される学校	児童・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	○教職員の授業力向上を図る。(成果指標：校内研修の満足度100%。働き方改革を意識した業務改善による退校時刻厳守)	① 年2回以上研究授業を行う。 ② 校外研修や研究会に2回以上参加し、校内研修や授業改善に活かす。 ③ 退校時刻や業務の効率化等、組織的な業務改善に全職員で協力して取り組む。
		○児童が安心安全に過ごせる学校環境の維持、向上を図る。(成果指標：児童の肯定的評価90%以上)	① ホームページや通信等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。

### 評価基準

A	目標を十分達成している。100%以上
B	目標を概ね達成している。75%以上100%未満
C	目標をやや下回っている。50%以上75%未満
D	目標を大幅に下回っている。50%未満

